

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400144		
法人名	特定非営利活動法人信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホーム やすらぎ2		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-11		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiqvosvoCd=2991400041-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットでひとつの家族と考え、共に支えあい、楽しく生活しています。職員ひとりひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとっています。自然豊かな高台に立地し、生駒山が一望でき、近隣には大型スーパーや公園があり日々の散策に活用させていただいています。地域の方々のボランティアによるフラダンス、お茶会等様々な場面で交流を図っており、地域サークルならではの入居者様と面識がある方もおられ旧交を温めていただいたり楽しんでいただいています。四季折々の行事も積極的に開催し、入居者様に季節感を感じていただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、以前の信貴山朝護尊寺参道沿いから現在地に移転し、やすらぎ2は平成26年新築の木造平屋建で木の香りも残るとても綺麗なホームである。当地は幹線道路に接し、私鉄駅も近くにあり、スーパーマーケットや公園に隣接するなど利便性と新興住宅地の落ち着いた住環境を兼ね備えている。訪問する家族も多く、職員は各利用者が安らぎと生き甲斐を感じつつ「楽しい」と思って暮らせるように日々支援に努めている。事業所は地域に根を張った拠点としての意欲を持っており、地域住民が気軽に訪れ利用者と交流が持てるよう今後の取り組みが期待できるグループホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を検討し、それを事務所の目に触れやすい場所に掲示し、職員会議等で共有し実践しています。	法人の理念、運営方針、介護規範を玄関に掲示している。管理者は、日々の業務の中で利用者の行動や反応を見ながら、理念や介護規範に添った職員の対応について気付いたことはその都度注意している。利用者が出来ることを見極め実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民代表として自治会長に出席していただいています。行事等に地域で活動されているサークルの皆さんに参加していただき交流を図っています。	自治会に加入し、自治会の行事には代表者が参加しているが、利用者が参加できるような行事は今のところは行なわれていない。平群町が行う敬老会には参加している。不定期だが長寿会連合会の手品のボランティアを要請したり、職員が主になりコーラスや踊りなどで事業所の行事を盛り上げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ネットワークの皆さんが訪問され地域で出来ることはないか相談におみえになったりされています。運営推進会議に地域住民代表として自治会長に出席していただき理解を深めています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、役場や他施設、地域住民代表として自治会長、家族様代表様に出席していただき情報交換ができるように配慮しています。	町福祉課職員、他施設職員、介護用品販売員、家族代表の参加で運営推進会議が2か月毎に行われており、自治会からは役員交代などで参加出来ないことがある。会議では、利用者の現状、活動報告、介護用品の説明などが行われ、出席者からも意見が出され話し合われている。	毎回家族の出席者が決まっており、また前回の課題であった他の家族へ外部評価の報告がなされていない。事業所の活動や運営推進会議に関心を持ってもらうためにも議事録、利用者の近況報告書等を送付するなど、参加呼びかけを積極的にされることを希望する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に参加していただき、施設での利用者様の様子や行事について報告させていただいております。	利用者や事業所の近況を運営推進会議で町福祉課職員に報告し、また町主催の敬老会へ参加者の席を確保のお願いや、介護認定更新等で不明なことがあれば相談に向くなど行政担当者との連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵や玄関に入って施設への入り口の施錠はやむを得ない理由があるものに関しては家族様の同意、施設職員の判断によりさせていただいております。	玄関は他のサービスの出入り口でもあるので開錠しているが、センサーを取付けて利用者の行動を見守り職員は適切な対応をしている。精神状態が不安定でパーキンソン症状を呈した利用者に家族の了解のもと一時的にベッド柵をしたことがあった。身体拘束について職員間で話し合いをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	訪問看護契約をされている利用者様も多く、ほぼ毎日、訪問看護師がこられ身体状態を診ていただいております。また、職員も3人以上現場にいれるようシフトの配慮もしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる利用者様もおられ、弁護士と直接お話をさせていただいています。また、利用者様の意志決定を尊重し外出等の支援をさせていただいております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には施設の見学をしていただき、管理者と統括が同席の上、利用者の家族様に月額利用料やその他については説明させていただいております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの要望等は職員から管理者へ反映する形になっており、面会に来られた家族様からの意見や要望などは管理者が聞き、職員へ反映させており、共用しております。	家族等が意見や要望を伝えやすいように匿名での意見承り箱を玄関に設置している。家族の訪問は多く、来訪時には職員からの声掛けで要望等の言いやすい環境をつくり意見を聴き、個人記録ノートに記録して職員間の情報共有に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人的な職員の意見は管理者が勤務時間内ならびに勤務時間外に聞いており、また、不定期ではあるが職員に施設へのアンケートも実施しております。	管理者は日々の活動の中で折に触れ職員の意見を聴くようにし、現場ケアに関しては主に主任が意見を聴き、職員の意見や気づきがより良いサービスに結び付くよう努めている。朝礼の送りの中で意見を伝えることもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当て等については時間外、または有給休暇をとられている職員もいます。職員からの備品等の要望についても管理者判断のもと購入しています。無理のない勤務体制にできるように管理者より個々の職員に声をかけています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者様の持病や服薬、塗布薬の作用、副作用等の情報は管理者が調べたり、訪問看護師や施設非常勤看護師に聞いたりしてノートにまとめ、スキルアップをはかっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、他施設の運営推進会議に参加させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には施設管理者と施設ケアマネージャーで訪問調査を行い、情報収集を行い、本人様の要望に対応できるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学に来ていただいたり、事前に不安や要望を聞きより良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切に、意見、要望を話しやすい雰囲気作りをしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様の意向をしっかりと把握し、安心してサービスをうけることが出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という意識をもち、教えていただいたり、時には励ましあったりしながら生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添い意見を聞きながら、本人様と良い関係を築けるようにしている。また、ご家族様にできることは協力していただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人、友人の面会時には、ゆっくりとすごしていただくよう雰囲気作りにも心がけています。	利用者の生活歴を家族より聞き取り、利用者との日々の会話の中でも聞き取ることに努め、今までの生活の延長線上での暮らしが続けられるように家族との関係継続も大事にしている。職員が付き添って毎月実家へ一時的に帰宅する利用者もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに名前を呼び合ったり利用者様同士で散歩へいかれたりされています。ひとりで過ごすのが好きな利用者様もおられますが食事のとき、体操などしているときはお話されており、職員を交えてテレビの話題などに対してお話もしています。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用いただいていたご家族様より入居者様の近況を連絡いただける事があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様より「こんなものが欲しい」など要望があれば家族様に連絡し持ってきていただいたり、施設側で購入したりしています。食べ物に関してはこちらで購入させていただいています。また一時帰宅なども送迎という形で支援させていただいています。	利用前に訪問調査や面談、見学などを実施し、利用後は日常会話や関わりの中から希望や思いの把握に努めている。意思表示が難しい利用者とは表情などで思いや意向の把握に努め、送りノート、看護、介護ノートで職員間の情報共有を図っている。	利用開始前の訪問調査、面談での利用者の情報が日常生活を送る上での病歴等身体面に重点が置かれている。利用者の得意なこと、希望など生活上の楽しい目標といった面も加えたフェイスシートの充実を希望する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室はテレビをおいたりされており、刃物等危険物以外は好きなものを置いていただいています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れはケース記録を確認しております。血圧等のチェックも毎日しており、声かけや日々のコミュニケーションで心身状態を把握しています。また、毎日の洗濯物は利用者様がたたまれています。利用者様の様子をみて家事手伝いさせていただいています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や送り等々で意見等を検討し、現状にあったケアが出来るようにしている。	業務日誌、個人記録ノート、看護・介護記録などをもとに介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを行い、職員とケアマネージャーが話し合い、介護計画を見直している。また必要に応じて介護計画の変更もしている。	持病への対応も大切であるが、それだけでなく、各利用者の思いや生き甲斐も取り入れた介護計画になるよう希望する。また職員が各利用者の介護計画を意識し、日常の支援に活かされることを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づきを「業務連絡ノート」や「看護・介護ノート」に書きとめ職員間で情報を共有し話し合い、実践につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の能力に合わせ、そのときの状況にあったケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期でボランティアによるフラダンスやコーラスを実施しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時は主治医に連絡をし受診しています。また訪問看護契約されている入居者様も多く主治医がいない時間でも看護師に来ていただいています。	事業所の協力医により2週間に1度の内科、月に1度の眼科、皮膚科の訪問診療がある。内科の協力医は2名おられ、利用者はどちらかを主治医としている。通院には職員が同行し、家族に受診結果を報告している。非常勤看護師が日常の健康管理を行っているが、訪問看護契約をされている方が多い。週に1度は全員が口腔ケアを受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、状態変化等の場合は相談し往診や受診の必要性の判断、助言を得ており連絡の取れる体制になっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中はスタッフ、管理者が訪問しており、退院を含め今後の方向性を話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される入居者様や家族様にはあらかじめ同意書をいただいております。また緊急時の対応についてもそのつど再確認し最適な判断を心がけています。本人様にとって、一番良い方法についてご家族様とチームで話し合い主治医と連携をとっている。	看取りに関する指針が明文化されており、利用者や家族に説明している。重度化した時には、再度意向や希望を聴き同意書を得て看取りの介護を行っている。終末期には、医師から家族に説明がされ、家族・看護師・職員が24時間対応の体制をとり最期の看取りを行っている。今までも看取りを行った事例があり、看取りに関する職員研修も行っている。今年は看取った方はいない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修を行い各職員にも初期対応の重要性を再確認し、そのときに備え緊急連絡網を作成し事務所に掲示しております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、消防署立会いのもと消防訓練を実施し避難訓練、通報訓練、消火訓練をしています。緊急避難場所や火災時の対応マニュアル、緊急時の職員連絡網も事務所に掲示しています。	消防署の指導をうけ利用者も参加して、昼間と夜間想定火災による避難訓練を行っている。今年は行政の指示で自然災害時の非常対策計画書を策定し、利用者も参加して災害時の避難訓練も行った。スプリンクラー、緊急通報装置、火災報知器などは設置済みで、米、缶詰、お茶なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人を尊重し、性格を理解し、その方に応じた話し方、声かけを行っています。プライバシーを配慮し申し送り時などときは部屋番号など使っています。排泄面などは慎重な声かけを行っています。近況報告はその方のキーパーソンにのみ伝えています。	利用者の名前を呼ぶ時は「さん」付けて呼び敬意を払っている。一人ひとりに合わせた丁寧で優しい言葉掛けや対応に努めており、トイレ誘導は自尊心を損なわないようにさりげない動作や耳打ちで行なっている。個人記録書類は昼間はすぐ記入出来るように、事務所横の廊下に置いているが、夜間は事務所内に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の思いや希望を汲み取り、職員が同じ支援ができるように情報の共有をしています。表情や何気ない声かけをしたり、寄り添ったりして思いを受け止めれるように支援しています。無理強いすることないように心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴など入居者様の様子を見て声かけし意思表示にて提供しています。レクなどは強制はせず自然に楽しんでいただけるように支援しています。その方のペースにあわせてその方らしく暮らしていただけるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目のところに訪問理容にてカットをお願いしています。起床時や入浴時は入居者様が着たい服を選んでいただいています。クシも使い髪の毛をといでいただけるよう声かけもしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が食べたいものを家族様了承のもと代理で購入したり家族様に持ってきていただいたりしています。誕生日や祝日などは色ご飯やケーキでお祝いさせていただいています。食後は自身で食べ終わったものやほかの方の食器を下善してください。	昼食と夕食の主菜は給食業者から調理済みの料理を提供している。朝食は職員が手づくりし、ご飯は事業所で炊いている。毎食検食し、検食表に記入している。誕生日会にはアイスクーキを利用者全員で楽しみ、年に3～4回は回転寿司や喫茶店に出かけて外食を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食は夜勤者で作っており、昼と夕食は総合給食サービスを利用し提供しています。水分の取りにくい方には、コーヒー、ジュース、ゼリー、その方の好きなものを提供し水分摂取を勧めています。水分量のチェックは毎日行い、情報共有しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎週1回は歯科往診も来ていただいています。毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせて声かけや見守りや介助を行っており、また、義歯の定期的な洗浄も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のしぐさや様子、時間をみて、声かけや誘導しています。夜間は本人様の負担にならないようオムツを使用しています。	自然な排泄を促すため毎朝食には牛乳とバナナ、おやつにはヨーグルトなどを提供している。一人ひとりの排泄サインを見逃さないように努め、適切なタイミングでトイレ誘導を行い自然な排泄ができるように支援している。利用者の2名はおむつ、4名がリハビリパンツ、3名が布パンツで対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を勧めたり、主治医や看護師と相談し便秘薬を服用されています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴予定者は職員側で決めていますその日の本人の体調などで入浴者をかえています。また、入りたいという要望があれば体調等をみたくうえで入浴していただいています。	入浴は週2回を基本とし、9時から15時を目安に入浴している。回数は利用者の希望に沿うよう努めている。利用者ごとにお湯を入れ替え、好みの洗顔フォームを持ち込み入浴を楽しんでいる。入浴できない時は洗髪用具(さっぱりさん)で洗髪して気分転換している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医や看護師と相談した上で入眠剤を服用されている方もおられます。着床時間も決まっておらず寝たいときに寝ていただいています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護契約をされている入居者様も多く体調の変化によっては、つど看護師と連絡をとっています。また2週間に1度主治医の往診もあり入居者様に変化があればそのつど報告しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	間違い探しや漢字ドリルを午前中されており楽しまれています。その他、編み物、毎月のカレンダー作り、塗り絵、散歩等、各々にあった息抜きや楽しみごとを提供しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一時帰宅や外出の要望があれば家族様と相談のうえで送迎などの支援をしています。また喫茶店にいたり外出レクリエーションも実施しています。	敷地内のプランター栽培の家庭菜園で夏野菜を栽培し収穫を楽しんだ。近くに公園があり車椅子利用の方も一緒に出かけたり、オレンジカフェにも出かけている。隣接するスーパーに朝食の材料を職員と買いに行ったり、利用者の希望があれば一時帰宅の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などのときはお金を事業所でたてかえています。居室での所持は入居者様に説明したうえでひかえていただいています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より要望があればいただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものや入居者様が作られたものなど飾っています。毎日施設内の床はモップがけています。窓など開けられないときはエアコンで温度調整しています。	居間は、明るくて広くゆったりとしており、事務室や台所から利用者を見守りやすい構造になっている。壁には利用者と一緒で作成したカレンダーなどが飾られ穏やかに寛げる空間になっている。浴室は広く、浴槽は2方から介助することができ、手すりが追加設置された。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっていますが、お話したい入居者様同士でイスを近づけられています。ひとつのテーブルに3～4人で座られています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用方法に決まりはなく、使い慣れた物や写真など置かれています。はさみや刃物など危険と判断したものは事務所で預かり使用されるときに提供しています。	居室の窓からは生駒山が一望でき季節を感じるができる。利用者は趣味のギターを持ち込み、ハンガーラックを置き写真を飾るなど、それぞれの部屋作りがされている。介護用ベッドと収納力の大きなタンスが備付けられ床下収納もありオムツ等の備品の保管場所になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日中は洗濯物たたみや机を拭いたり家事を手伝っていただいています。服を着替えたり、食事や歯磨きなど本人のペースでしていただいています。		